

第40回 全国トラックドライバー・コンテスト

講 評

平成20年10月27日

(社) 全日本トラック協会

専務理事 豊田 榮次

記念すべき節目となる第40回全国トラックドライバー・コンテストは、あいにくの小雨混じりの天候の中、一昨日、昨日の2日間にわたり、茨城県ひたちなか市の自動車安全運転センター安全運転中央研修所で開催されました。

今回から2トン部門が廃止されましたので、前回より39名少ない132名の選手が参加しました。内訳は、4トン部門45名、11トン部門44名、トレーラ部門28名、女性部門15名でした。

2日間の競技におきまして、休日にもかかわらず、競技の審査をお願いいたしました自動車安全運転センター安全運転中央研修所の皆様のご配慮と熱意に改めて感謝申し上げます。また、整備点検競技のアシスタントをつとめていただいた各社の皆様にもお礼を申し上げます。

それでは講評を申し上げます。

最初に、学科競技であります。

問題別に見ると、交通法規の31番、高速道路の路側帯の問題で、原則は当然に通行禁止ですが、事故等により警察官の指示があった場合には通行できますので「いかなる場合も」という表現では×が正解となります。また、36番の泥はねは、反則金7千円の対象になりますので、ご注意ください。構造機能の45番、点検整備記録簿は定期点検のほか分解整備をしたときにも記載義務がありますので×です。一番多くの方が間違ったのが50番の道路運送車両法に定める「道路運送車両」の定義の問題ですが、出題は条文のままですので○になります。ところが道路交通法に定める「車両」にはトロリーバスも含まれます。普段は道路交通法に従って運転されている皆さんには申し訳ありませんが、法律が違くと定義も違う、ということでご理解ください。55番の大型後部反射器の数については、保安基準本体には規定されず、細目告示に示されています。灯火、ランプの数や色についても告示を見ないとわからないという状況にあり、出題する方も悩ましいところです。58番の小型自動車の定義では、2000cc以下というのはガソリン車の場合であって、軽油を燃料とする自動車には適用されませんので×になります。

結果として、学科競技の満点の方は、4トン部門に一人だけでした。今回は女性部門もがんばっていて、全体としてレベルはアップしているようですが、意外にトレーラ部門が振るわなかったように感じます。

次に、整備点検競技では、132名のうち54名の方が200点満点でした。前回と同じく、女性部門を含めて、大半の方が20点以内の減点にとどまっています。

見落とした方が多かったのは、昨年と同じくタイヤの空気圧不足でした。タイヤで減点された方を見ると、作為箇所を指摘しなかった人が42名、一方、正常なタイヤを誤って空気圧不足と指摘した人が33名でした。毎年、申し上げているように、点検ハンマーの叩き方が弱くて判断がつかない方が多かったようです。なお、11トン部門の4号車にあたった方の正解は一人だけでした。設定した試験官に確認したところ間違いなく適正圧力にしてから40%減圧した、ということでしたので空気圧不足の指摘がなかった方は10点減点となりました。あしからずご了承ください。

バッテリー液やオイルなどの液量については、今回、作為箇所の設定がなく、いずれも適量に保持されていましたが、過不足を指摘した方が20名ほどおられました。11トンとトレーラ部門で「ホイールナットの緩み」に気づけなかった方が6名で、これも点検ハンマーの使い方が適切でなかったようです。このほか、ワイパー不良や灯火不良を指摘できなかった方も若干おられました。

運転競技では、満点の方は、昨年は2トン部門で1名のみでしたが、今回は4トン部門で3名、11トン部門で6名の計9名でした。

審査官の印象をうかがうと、今回は、走行速度が適切でタイムオーバーになった方は少なく、また、アイドリング・ストップなど省エネ運転も概ね定着していたようです。課題走行では女性部門を中心にパイロンにタッチするなど車幅の見切りが不適切な方が見受けられ、車庫入れでも、ぶついたり接触した方が例年より若干多かったようです。一時停止すべき箇所で、キチンと停止しなかったり、安全確認が不十分な方も少なくなかったようです。部門別では、女性部門で、運転にメリハリがなく、安全確認が確実ではない方が見られ、トレーラ部門では右左折の時に大回りする方や、逆に脱輪する方が目に付いたそうです。また、今回も助手席の審査官がスタート時にシートベルトを装着していないことを指摘しなかった方があったようです。

以上の競技別得点の合計の最高得点は、1000点満点で985点で、2位とは5点差、まさに接戦でした。なお、いくつかの部門で2位以下で同点の方が複数あるという結果がでましたが、所定の方法により、事故・違反の有無と年齢により順位を決定いたしました。

各部門の入賞者の氏名は、このあと発表していただきますが、残念ながら

入賞できなかった皆さんも含めて、記念すべき40回大会に出場したという誇りを胸に、事故ゼロを目指して、これからも交通安全と環境にやさしい運転の励行に努め、広く社会に貢献されるようお願いいたします。

以上で講評を終わります。